
算数・数学分科会

I 研究のあゆみ

4月20日(木)	2023年度名教組教研オリエンテーション (2023年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月 2日(火)	発表テーマ報告・集約	
5月 8日(月)	研究計画の検討	【教育館】
5月24日(水)	研究内容の検討(第1次実践)	【教育館】
6月14日(水)	研究内容の検討(第2次実践)	【教育館】
6月下旬~8月中旬	全体での会は開かなかったものの、個別に指導	
8月21日(月)	市集会発表内容の検討(リハーサル)	【教育館】
9月16日(土)	第73回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

II 研究協議の概略

意見交流は「新しい教育が求められる今、算数・数学を学ぶ価値とは？」というテーマで行った。設定の背景には、個別最適な学び、自由進度学習、主体的・協働的な学びなど、新しい教育が求められている現在、実現に向けて試行錯誤する一方、決して忘れることなく大切にしなければいけない価値観や学びがあると考えたからだ。

今回、本分科会で発表されたレポートは、上記の新しい教育を意識しつつも、子どもたち一人ひとりの成長を大切にしたい実践ばかりであった。子どもの意欲を高める教材の工夫・考える楽しさを味わう話し合い活動・自己の考えを広げ深めるための振り返り活動など、授業のどの場面でも、今後の授業に活用できる実践が多く発表された。とりわけ、学習者用タブレットを使った実践では、昨年度の反省を生かし、使うことが目的にならず、使うことで身に付けさせたい子どもたちの資質・能力までを意識した実践も見られた。

また、ナゴヤスクールイノベーションをうけて、個別最適な学びに触れた実践が増えたことは、求められている資質・能力に合わせて発表分会が創意工夫していることがうかがえた。個別最適な学びに係る実践では、単元の指導計画において全体指導と自由進度を効果的に配置し、それらを「学習の流れ」として子どもに示すことで見通しをもたせ、一人ひとりが自分の進度で学習を進めたり、興味に基づいて生き生きと活動したりしている様子がうかがえた。また、それらを自分の意志で決定する「自己決定」を重要視して実践に取り組んでいた。

算数・数学における不易と流行を踏まえ、子どもたちの「今」と「これから」を見据えた実践発表を通して、参加者全員にとって有益な市教研となった。

III 今後に残された課題

- 導入、展開、まとめの各場面における学習者用タブレットの使用について、目的意識をもって、有効な使用方法をより精査していく必要がある。
- 自由進度学習の効果的な取り入れ方や実施方法について、解決する課題を明確にし、取り入れ方や実施方法について精査していく必要がある。
- 算数科における個別最適化された学びなど、新しい教育の実現に向けた学習形態の在り方を探る。